

年・頭・所・感

トップ交代の年

昨年の7月中旬、「天皇陛下が生前退位の意向を示された」と一斉に報道(個人的には「退位」と「譲位」、どちらを用いるべきか悩む)。譲位を認めると「上皇」の弊害が生じるおそれがある、天皇自らの意志ではない強制退位の可能性がある、そもそも皇室典範に譲位の条項がない、などなどメディアは大騒ぎ。我々一庶民の意見などどうでも良いことだが、あのお歳で色々な国家行事に参列されているお姿を見るにつけ、譲位はともかくせめて皇太子に公務を代行させればいいのに、と思う。

アメリカ大統領の任期は1期4年で2期まで、計8年。韓国の大統領の任期は1期5年で再任はなし(だからこそその利権騒動)。日本の首相は制度上は任期がない。ただ、自民党の総裁が総理大臣となり、その総裁の任期が1期3年の2期までと定められているから、その年限が事実上の任期となり、計6年が最長。それが誰の発案なのか自民党総裁の任期を3期9年まで延長すべきだとの声が上がリ、今年の党大会で改正される見通し。盤石の安倍がさらに3年首相を継続、次期首相を狙っていた連中はガックリ落ち込んでいるに違いない、と想像する。

以上のように役職に任期がある。公益社団法人日本技術士会も統括本部役員(理事、監事)の任期は1期2年で、連続2期4年まで。会長は理事の中から選出するので、会長の任期も最長2期4年。北海道本部の場合は、本部長の再任は通算して5期以内、地域本部に設置されている委員会の委員長は通算して3期6年以内と定められている。

かように役職に任期が設けられているのはなぜか。任期がない場合を想定すれば良い。トップに立

能登 繁幸(のと しげゆき)

技術士(建設/総合技術監理部門)

公益社団法人 日本技術士会
北海道本部
本部長



つものは組織のために高邁なる目標を持ち、その目標に向かって全力を尽くす。その実績をもとに信頼を勝ち得れば組織の行動力が高まり、まとまりも良くなる。しかしやがて、当初の情熱が鎮まり、行動が鈍り、自分の力を過信し始め、独裁の弊害が生じてもそれに気づかず、権力をほしいままに振るう、という状態になる(多分)。組織は萎縮し、士気が低下し、トップの求心力が薄れ、閉塞感が漂って来る。

一方、任期満了で新しいトップが誕生するとどうなるか。トップ人事は組織の命運を決めるから、トップは言動が慎重になり責任の重大さを知る。前任者の方向性、目標を大事にしながら、新しい視点で組織を眺める。新たな問題を見つけ、任期中の解決を目指し、積極的な行動を起こす。新陳代謝が進み、組織が若返る。

今年もまた安倍政権は絶好調、というか、民進党に迫力が無く、長期安倍政権が続く気配だ。アメリカはオバマからトランプに代わる。韓国大統領は国会が弾劾訴追案を可決し、まもなく憲法裁判所が大統領罷免の是非を発表する。激高した国民感情を考えれば新しい大統領誕生の可能性が高い。それらと同列に論じるわけではないが、今年は日本技術士会の統括本部及び地域本部の役員改選期であり、任期4年を経過した会長始め多くの理事が交代する。北海道本部の役員もかなり入れ替わることが予想される。トップが代わるとものの見方、価値観が微妙に変わる。目の付け所が異なっている。今年は若々しい日本技術士会ならびに北海道本部が誕生する年なのだ。大いに期待しよう。去年の漢字は「金」であったが、今年は交代の「代」…かも。